

「イラク派兵ノー、年金改悪反対」 ラッピングカーが全都をかける

東京地評・東京社保協・東京民医連共同のイラク派兵反対、年金改悪反対ラッピング宣伝カーが3月6日まで都内全域で運行されました。この宣伝カーを利用した各地域での宣伝行動から、2月25日の立川での行動を紹介します。

立川労連では、この日のために実行委員会を数回開催し準備をしてきました。

2月25日の早朝七時から、立川駅をはじめとする7駅に92名の参加者がイラク・年金パネルを掲げて1650枚の東京春闘のビラを配布しました。暖かい日とあって受け取りもよく、一部の駅ではビラが足りなくなりました。その後、ハデハデのラッピングカーを含む六台の宣伝カーを国立・立川・昭島三市で運行しました。

午後は、国立・立川・昭島駅で、憲法25条にちなん年金者組合がおこなってきた最低保障年金制度創設の宣伝署名に合流。とりわけ昭島駅にはラッピングカーを配置し、27名で旺盛に取り組みました。キリンやタヌキの着ぐるみが登場して子どもたちに風船を配りはじめると、駅前の雰囲気や和やかになり、若い人たちも立ち止まるようになりました。一時間半で、94筆の署名、2100円のカンパが寄せられました。

夜は、「イラク派兵ノー、年金大改悪を許すな、憲法・教育基本法を守れ！学習交流会」をアイムホールで行ないました。参加者150名の中には高校生や青年の姿も見られ、関心の高さがうかがわれる集会でした。

(立川労連 田中龍男)



昭島駅での署名宣伝、着ぐるみに親子連れも足を止める